

Expressワークステーションの運用および保守について説明します。

日常の保守(→184ページ)	Expressワークステーションを日常使う上で確認 しなければならない点やファイルの管理、クリー ニングの方法について説明します。
システム診断(→188ページ)	Expressワークステーション専用の診断ユーティ リティの使い方について説明します。
障害時の対処(→190ページ)	故障かな?と思ったときに参照してください。ト ラブルの原因の確認方法やその対処方法について 説明しています。
オフライン保守ユーティリティ(→224ページ)	Expressワークステーション専用の保守ユーティ リティの使い方について説明します。
移動と保管(→227ページ)	Expressワークステーションを移動・保管する際 の手順にや注意事項について説明します。
ユーザーサポート(→228ページ)	Expressワークステーションに関するさまざまな サービスについて説明します。サービスはNECお よびNECが認定した保守サービス会社から提供さ れれるものです。ぜひご利用ください。



Expressワークステーションを常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。 管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、 「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

 Toricore To

ESMPROでチェックする画面

統合ビューア

バックアップ

定期的にExpressワークステーションのハードディスク内の大切なデータをバックアップす ることをお勧めします。Expressワークステーションに最適なバックアップ用ストレージデ バイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

データビューア

クリーニング

Expressワークステーションを良い状態に保つためにExpressワークステーションを定期的 にクリーニングしてください。

> 装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を 守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-ROM/RWドライブの内部をのぞかない
- リチウム電池を取り外さない
- プラグを差したまま取り扱わない



本体のクリーニング

Expressワークステーションの外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の 原因になります。
- コンセント、ケーブル、本装置背面のコネクタ、本装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。
- 1. Expressワークステーションの電源がOFF(POWERランプ消灯)になっていることを確認する。
- 2. Expressワークステーションの電源コードをコンセントから抜く。
- 3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
- 4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
- 5. Expressワークステーションの汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
- 6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
- 7. 乾いた布で水気をふき取る。
- 8. 乾いた布で背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

キーボード/マウスのクリーニング

キーボードはExpressワークステーションおよび周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF (POWERランプ消灯)になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で乾拭 きしてください。

マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなけ ればなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的 に次の手順でクリーニングしてください。

- 1. Expressワークステーションの電源がOFF(POWERランプ消灯)になっていることを確認する。
- マウスを裏返してマウスボールカバーを 反時計回りに回して中からマウスボール を取り出す。
- マウスボールを乾いた柔らかい布などで ふいて、汚れを取り除く。

汚れがひどいときはぬるま湯または水で 薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてく ださい。

4. マウス内部にある3つの小さなローラを 綿棒などでふく。

汚れがひどいときはアルコールなどを少 量含ませてふいてください。

5. マウスボールをマウスの中に戻す。

手順3、4でマウスボールやローラをぬら した場合は、十分に乾燥させてからボー ルを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計 回りに回してロックする。



マウス底面



CD-ROM/RWのクリーニング

CD-ROM/RWにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを 正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、CD-ROM/RWのクリーニング を行います。

- 1. Expressワークステーションの電源がON(POWERランプ点灯)になっていることを確認する。
- CD-ROM/RWドライブ前面のオープン/クローズボタンを押す。
 トレーがCD-ROM/RWドライブから出てきます。
- 3. CD-ROM/RWを軽く持ちながらトレーから取り出す。



CD-ROM/RWの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

ਰਾ

CD-ROM/RWドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の 原因となります。

- 5. オープン/クローズボタンを押して(またはトレーを軽く押して)トレーをCD-ROM/RWドライブ に戻す。
- 6. CD-ROM/RWの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

₩O IIII

CD-ROM/RWは、中心から外側に向けてふいてください。ク リーナをお使いになるときは、CD-ROM/RW専用のクリーナで あることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリー ナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めな くなったり、Expressワークステーションにそのディスクを セットした結果、故障したりするおそれがあります。



システム診断

システム診断はExpressワークステーションに対して各種テストを行います。 「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を実行してExpressワークステーションを 診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- Expressワークステーションに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクのチェック
- Expressワークステーションに標準装備しているネットワーク(LAN)コントローラの チェック



システム診断を行う時は、必ず、本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響を及ぼす可能性があります。



ハードディスクのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

次の手順でシステム診断を起動します。(Expressワークステーションが運用中の場合は シャットダウンし、再起動できる状態にした後で手順1~11を行ってください。)

- 1. シャットダウン処理を行った後、Expressワークステーションの電源をOFFにし、電源コードを コンセントから抜く。
- 2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
- 3. 電源コードをコンセントに接続し、Expressワークステーションの電源をONにする。
- CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をCD-ROM/RWドライブにセットして、再起動する。
 システムがCD-ROMから起動し、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
- 5. 「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の[ツール]を選択する。
- 「ツールメニュー」の[システム診断]を選択する。
 システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。



システムバー: 試験中に時間などの情報が表示されます。診断終了後には、ウィンドウ を操作するキーの説明が表示されます。

タイトルバー: 診断の項目が表示されます。エラーを検出したときは、このバーが赤色 表示になります。

試験ウィンドウ: 診断の経過または結果が表示されます。

ターゲットスコープ: 試験ウィンドウを選択するためのカーソルです。キーボードのカーソル キーで他の試験ウィンドウに移動します(ここで<Enter>キーを押す と、選択したウィンドウに対する確認ができます。もう一度、<Enter> キーを押すと元の画面に戻ります)。

システム診断でエラーがあった場合はタイトルバーが赤色に変化し、エラーに関する情報が赤色で表示され警告を促します。

エラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

7. <Q>キーを押して、メニューの中から[reboot]を選択する。

Expressワークステーションが再起動し、システムがCD-ROMから起動します。

- 8. EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROM/RWドライブからCD-ROMを取り出す。
- 9. Expressワークステーションの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
- 10. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。
- 11. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

障害時の対処

「故障かな?」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある 場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認 し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。 障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行 います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、 ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

Expressワークステーションになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

Expressワークステーションの電源をONにする と自動的に実行される自己診断機能「POST」中に 何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置 の画面にエラーメッセージが表示されます(場合 によってはその対処方法も表示されます)。

Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.00XX : CPU=Pentium IV XXX MHz 0640K System RAM Passed 0127M Extended RAM Passed WARNING #2 RIMM group has been disabled. :

メモリの故障を示すメッセージ(例ではメモリ 🖌 #2が故障した場合の表示)

Press <F1> to resume, <F2> to setup

次ページ以降の表で、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法について説明しま す。



保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。アラー ム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

エラーメッセージ	意味	対処方法
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクエラー	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0210 Stuck Key	キーボード接続エラー	キーボードを接続し直してください。
0211 Keyboard error	キーボードエラー	キーボードを接続し直してくださ
0212 Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラ エラー	も直らない場合は保守サービスに 連絡してください。
0230 System RAM Failed at offset	システムRAMエラー。オ フセットアドレス	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0231 Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMエラー。オ フセットアドレス	
0232 Extended RAM Failed at address line	拡張RAMエラー。オフセ ットアドレス	
Single-bit ECC error occurred	メモリ1ビットエラーが起 きた。	
Multiple-bit ECC error occurred	メモリ複数ビットエラーが 起きた。	
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP	システムのパッテリがな い。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。コンピュータを再起動 後、Setupを起動して設定し直し てください。
0251 System CMOS checksum bad Default confituration used.	システムCMOSのチェック サムが正しくありません。	デフォルト値が設定されまし た。Setupを起動して、設定し直 してください。
0260 System timer error	システムタイマーエラー	保守サービス会社に連絡してくだ
0270 Real time clock error	リアルタイムクロック エラー	
0271 Check date and time settings	リアルタイムクロックの時 刻設定に誤りがある。	Setupを起動して、時刻を設定し 直してください。設定し直しても 同じエラーが続けて起きるときは 保守サービス会社に連絡してくだ さい。
02B0 Diskette drive A error	フロッピーディスクAの エラー。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
02D0 System cache error - Cache disabled	システムキャッシュ エラー。	キャッシュを使用できません、保 守サービス会社に連絡してくださ い。

エラーメッセージ	意味	対処方法
PCI System Error on Bus/Device/ Function	パス/デバイス/ファンク ションでPCIシステムエラ ーが発生した。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
PCI Parity Error on Bus/Device/ Function	バス/デバイス/ファンク ションでPCIパリティエラ ーが発生した。	
0B28 Unsupported CPU detect on CPU Socket1	サポートしていないCPU がCPU#1のソケットに取 り付けられている。	保守サービス会社に連絡して本装 置がサポートしているCPUと交換 してください。
0B29 Unsupported CPU detect on CPU Socket2	サポートしていないCPU がCPU#2のソケットに取 り付けられている。	
0B30 Fan 1 Alarm occurred.	装置前面のファンの異常。	FANの目詰まりをチェックして、
0B31 Fan 2 Alarm occurred.	装置背面のファンの異常。	ば取り除いてください。異常が見
0B32 CPU Fan 1 Alarm occurred.	CPU1に搭載したファンの 異常。	当たらない場合や清掃しても直ら ない場合は保守サービス会社に連 絡してください。
0B33 CPU Fan 2 Alarm occurred.	CPU2に搭載したファンの 異常。	
0B50 1st CPU with error taken off line.	CPU#1でエラーを検出し たため、CPU#1を縮退し た。	CPUが縮退しています。保守サー ビス会社に連絡してください。
0B51 2nd CPU with error taken off line.	CPU#2でエラーを検出し たため、CPU#2を縮退し た。	
0B5F Forced to use CPU with error.	CPUエラーを検出した。	すべてのCPUでエラーを検出した ため、強制的に起動しています。 保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0B60~0B67 WARNING-nnnRIMM group has been disabled.	RIMM番号(nnn)でメモリ エラーを検出した。メモリ が縮退している。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。

* 0B60~0B67のRIMM番号「nnn」とメモリボード上のソケットは次のように対応しています。



エラーメッセージ	意味	対処方法
0B6F ERROR-RIMM group with error is enabled.	メモリエラーを検出した。	全てのメモリでエラーを検出した ため、強制的に起動しています。 保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0B70 The error occurred during temperature sensor reading.	温度 異常を検出する途中に エラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0B71 System Temperature out of the range	温度異常を検出した。	ー度電源をOFFにして、各FANの 目詰まりをチェックして、ホコリ が付着しているようであれば取り 除いてください。異常が見当たら ない場合や清掃しても直らない場 合は保守サービス会社に連絡して ください。
0B74 The error occurred during voltage sensor reading	電圧を検出中にエラーが起 きた。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
0B75 System Voltage out of the range	システムの電圧に異常を検 出した。	
0B78 The error occurred during fan sensor reading	FANセンサのリード中にエ ラーを検出した。	
OBBO SMBIOS - SROM data read error.	SROMデータを正しく読め なかった。	再起動してください。それでも直 らない場合は保守サービス会社に 連絡してください。
0BB1 SMBIOS - SROM data checksum bad.	SROMデータのチェックサ ムが正しくない。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
Expansion ROM not initialized	PCIカードの拡張ROMが初 期化されない。	PCIボードの取り付け状態を確認 してください。または、SETUPを 起動し、[Advanced]メニュー の[Option ROM]で、起動に必要の ないPCIボードに対する設定を無 効にしてください。
Invalid System Configuration Data	システムを構成しているデ 一タが破壊されています。	保守サービス会社に連絡してくだ さい。
System Configuratino Data Read error	システムを構成しているデ ータのリードエラー。	
Resource Conflict	PCIカードのリソースが正 しくマッピングされていな い。	
System Configuration Data Write Error	システムを構成しているデ ータのライトエラー。	
WARNING: IRQ not configured	PCIカードの割り込みが正 しく設定されていない。	

Windows 2000/Windows NT 4.0のエラーメッセージ

 OSの起動後に致命的なエラー (STOPエラーやシステムエラー)が 起きるとディスプレイ装置の画面 がブルーに変わり、エラーに関す る詳細なメッセージが表示されま す。
 STOP: C000021A (FATAL SYSTEM ERROR)
 The Windows logon process.. System process terminated.
 Unexpectedly with a status of 0x00000001 (0x00000000 0x00000000).
 The system has been shutdown.
 crashdump: initializing miniport driver crashdump: dumping physical memory to disk

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。 また、このエラーが起きるとExpressワークステーションは自動的にメモリダンプを実行し 任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(22ページの「メモリダンプ(デ バッグ情報)の設定」参照)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのファイルの提供を 依頼する場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーして保守員に渡せ るよう準備しておいてください。



STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足し ていることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。



このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベン トログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認し てください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentをExpressワーク ステーションへ、ESMPRO/ ServerManagerを管理PCヘインストール しておくと、Expressワークステーション に何らかの障害が起きたときに管理PCを 通じて障害の内容を知ることができます。

ESMPROを使ったシステム構築や各種設 定の詳細についてはオンラインヘルプか、 別売の「ESMPROシステム構築ガイド」を 参照してください。

	重要鹿	(すべ	0	*	コンポキント (ワイ	5°D	•	
	チェック	状態	317	マネージャ	コンホーネント	アドレス	発生時刻	
システムCPU高負荷回復			CPU		(不明なサーハ)	10.8 46 106	1997/01/29 17:13	
システムCPU具常高負荷	فث	33	CPU		[不明なサーハ]	10.8.46.106	1997/01/29 17:11	
システムCPU高負荷回復		39	CPU	comm	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:31	
システムCPU高負荷回復		÷	CPU	comm	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:13	
システムCPU異常高負荷		E 1	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:12	
システムCPU異常高負荷回復	فت	39	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:10	
システムCPU異常高負荷		33	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 17:54	
システムCPU高負荷回復	1.	39	CPU	comm	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 17:25	
システムCPU高負荷回復	1	79	CPU		{不明なサーハ}	10.8.46.106	1997/01/27 14:08	
システムCPU高負荷	وت	73	CPU		[不明なサーハ]	10.8.46.106	1997/01/27 14:05	
システムCPU高負荷回復	1	39	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:29	
システムCPU高負荷回復		39	CPU		{不明なサーハ}	10.8.46.106	1997/01/16 19:29	
システムCPU高負荷		C	CPU	comm	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:28	
システムCPU高負荷回復		79	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:27	
システムCPU高負荷	1	33	CPU		[不明なサーハ]	10.8.46.106	1997/01/16 19:27	
システムCPU高負荷回復		33	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:34	
システムCPU高負荷		39	CPU	comm	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:33	
システムCPU高負荷回復		79	CPU	comm	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:26	
全体 18 件, 未読 3 件							情報 警告 !	ġ

トラブルシューティング

Expressワークステーションが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリ ストの内容に従ってExpressワークステーションをチェックしてください。リストにある症 状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。 それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録

それでも正常に動作しない場合は、ティスノレイ装置の画面に表示されにメッセーンを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

Expressワークステーションについて

🕜 電源がONにならない

- □ 電源がExpressワークステーションに正しく供給されていますか?
 - → 電源コードがExpressワークステーションの電源規格に合ったコンセント(また はUPS)に接続されていることを確認してください。
 - → Expressワークステーションに添付の電源コードを使用してください。また、 電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていないことを確認して ください。
 - → 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
 - → UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていることおよびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくは、UPSのマニュアルを参照してください。

また、ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティでUPS との電源連動機能の設定ができます。

- <確認するメニュー: 「System Hardware」→「AC-LINK」→「Power On」>
- □ POWER/SLEEPスイッチを押しましたか?
 - → Expressワークステーション前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押して電源 をON(POWERンプ点灯)にしてください。

🕜 画面が出ない・ビープ音が鳴る

- □ RIMMやメモリボードが確実に実装されていますか?
 - → RIMMやメモリボードがしっかりとコネクタに実装されているか確認してくだ さい。
 - → 同一ペア内に異なった仕様のRIMMが実装されていないか確認してください。 RIMMの仕様については87ページの「RIMM」を参照してください。
- □ CRIMMが確実に実装されていますか?
 - → メモリ増設の組み合わせによっては、本装置に取り付けられていたCRIMMを RIMMが取り付けられていないスロットに取り付けなければいけない場合があ ります。詳しくは、87ページの「RIMM」を参照してください。
- POSTのメモリカウントやBIOSセットアップメニュー、OSのシステム情報のメモリ 容量が物理メモリと合っていない
 - → 搭載しているPCI/AGPボードなどの構成によっては、メモリを4GBに増設して も「Extended Memory」に表示される物理メモリ容量が4GBにならない場合が あります。

? F

<u>POSTが終わらない</u>

- □ 大容量のメモリを搭載していますか?
 - → 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があ ります。しばらくお待ちください。
- □ Expressワークステーションの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか?
 → 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意して
- □ Expressワークステーションで使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか?
 → NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。

? ブルー画面で電源OFFできない

ください。

- □ 一度押しでは電源OFFはできません。
 - → ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン:電源 スイッチを4秒以上押し続ける)を行ってください。

プロセッサが異常高温になると、高価な部品を保護するための回路が作動します。この場合、システムはリセット状態となるため、POWER/SLEEPスイッチによる電源制御ができなくなります。電源コードを抜いて、電源をOFFにし、運用環境(周囲温度など)を確認した後、しばらくしてから再度、電源コードを接続し、電源をONする必要があります。なお、プロセッサが冷却されるまでの間(通常であれば5分程度)は、電源をOFFの状態にしておく必要がある場合もあります。

内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

- □ ケーブルは正しく接続されていますか?
 - → インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていること を確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- □ 電源ONの順番を間違っていませんか?
 - → 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、Expressワークス テーションの順に電源をONにします。
- □ ドライバをインストールしていますか?
 - → 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付のマニュアルを参照してドライバをインストールしてください。
- □ BIOSの設定を間違えていませんか?
 - → PCIデバイスを接続している場合は、ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。(通常は特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。)

<確認するメニュー: 「Advanced」→ 「PCI Device」、「Option ROM」>

運用・保守編

- → シリアルポート、パラレルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付のマニュアルを参照して正しく設定してください。
 <確認するメニュー: 「Advanced」→「Peripheral Configuration I>
- □ ジャンパは正しく設定されていますか?
- → 接続されているデバイスにはジャンパ設定が必要なものがありますので添付の 説明書を参考に、ジャンパを設定してください。

- □ ケーブルは正しく接続されていますか?
 - → Expressワークステーション背面にあるコネクタに正しく接続されていること を確認してください。
 - → Expressワークステーションの電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません(USBデバイスを除く)。いったんExpressワークステーションの電源をOFFにしてから正しく接続してください。
- □ BIOSの設定を間違えていませんか?
 - → ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティでマウスを無効にすることができます。また、マウスが使用する割り込み(IRQ12)をPCIデバイスに割り当てていると正しく動作しない場合があります。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
 - <確認するメニュー: 「Advanced」→「Peripheral Configuration」→ 「Mouse」 「Advanced」→ [PCI Device」
- □ ドライバをインストールしていますか?
 - → 使用しているOSに添付のマニュアルを参照してキーボードやマウスのドライバ がインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストー ルの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマ ウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付のマニュアル を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- □ Secure Modeになっていませんか?
 - → Secure Mode中は、キーボード・マウスは機能しません。SETUPで設定した ユーザーパスワードを入力してSecure Modeを解除してください。

Windows 2000のインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化 けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

- □ 複数のハードディスクを接続したり、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシ ステムドライブを作成してインストールを行っていませんか?
 - → OSをインストールするハードディスク以外のハードディスクをいったん取り外した状態でインストールしてください。
 - → ディスクアレイコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、シス テムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールしてください。複 数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレ イのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

Windows 2000のインストール後に、デバイス マネージャで日本語106/109 キー ボードが英語101/102 キーボードと認識される

- → デバイスマネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キー ボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本 語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。
 - 1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
 - 2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をク リックする。
 - 3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。 101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード
 - ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知の ドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
 - 5. 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/ 2キーボード(106/109キー)を選択して[次へ]ボタンをクリックする。
 - 6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
 - 7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]ボタンをクリックして操作 を続行する。



<u>フロッピーディスクにアクセスできない</u>

- □ フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか?
 - → フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでくだ さい。
- □ 書き込み禁止にしていませんか?
 - → フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」に セットしてください。
- □ フォーマットしていますか?
 - → フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたフロッピー ディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに 添付のマニュアルを参照してください。
- □ BIOSの設定を間違えていませんか?
 - → ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティでフロッピー ディスクドライブを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリ ティで設定を確認してください。

<確認するメニュー: 「Main」→「Diskette A」

[Advanced] → [Peripheral Configuration] →
[Diskette Controller]
[Security] → [Diskette Write], [Diskette Access]>

- □ 1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用していませんか?
 - → 本装置では1.2MBフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。 1.44MBフォーマットか720KBフォーマットのフロッピーディスクを使用して ください。
- □ 「Diskette Access」が「Supervisor」に設定されていませんか?
 - → 起動時にUser Passwordを入力するとフロッピーディスクへのアクセスができ ません。
 - → BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
 <確認するメニュー: 「Security」→「Diskette Access」→「User」>

<u> CD-ROM/RWにアクセスできない</u>

- □ CD-ROM/RWドライブのトレーに確実にセットしていますか?
 → トレーに確実にセットされていることを確認してください。
- □ Expressワークステーションで使用できるCD-ROMですか?
 - → Macintosh専用のCD-ROMは使用できません。

<u> ハードディスクにアクセスできない </u>

- □ Expressワークステーションで使用できるハードディスクですか?
 → NECが指定する機器を使用してください。
- □ ハードディスクは正しく取り付けられていますか?
 - → ハードディスクの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。また、ハードディスクを固定するネジはハードディスクに添付されているネジを使用してください。
- □ ハードディスクの設定を間違えていませんか?
 - → SCSI IDやSCSIの終端などハードディスクの設定が必要です。詳しくはハード ディスクに添付のマニュアルを参照してください。内蔵SCSIケーブルの端のコ ネクタでSCSIは終端されます。ハードディスクで終端の設定をする必要はあり ません。
- SCSI機器(内蔵・外付け)にアクセスできない
 - □ Expressワークステーションで使用できるSCSI機器ですか?
 - → NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。
 - □ SCSI機器は正しく取り付けられていますか?
 - → SCSI機器の取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。接続できる台数は、5.25インチデバイスペイに搭載してるデバイスを含め4台まで(外付けデバイスは2台まで)です。また、外付けデバイスを接続するケーブルは、ケーブル長の合計が1.5m以内でなければなりません。
 - □ SCSI機器の設定を間違えていませんか?
 - → 外付けのSCSI機器を接続しないときは、背面のSCSIコネクタに添付の終端コ ネクタを取り付けてください(内蔵の5.25インチデバイスのSCSI終端は添付の 終端コネクタで設定されます)。また、5.25インチデバイスのSCSI IDが重複し ていないことを確認してください。
 - → 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要 です(5.25インチデバイスのSCSI IDと重複していないことも確認してください)。詳しくはSCSI機器に添付のマニュアルを参照してください。

- □ SCSIコントローラの設定を間違えていませんか?
 - → SCSI機器を接続している場合は、SCSI BIOSセットアップユーティリティで正 しく設定してください(125ページ参照)。オプションのSCSIコントローラボー ドを搭載している場合はオプションのボードに添付のマニュアルを参照してく ださい。

② OSを起動できない

- □ フロッピーディスクをセットしていませんか?
 → フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- \Box EXPRESSBUILDERをセットしていませんか?
 - → EXPRESSBUILDERを取り出して再起動してください。
- □ OSが破損していませんか?
 - → Windows NTまたはWindows 2000の修復プロセスを使って修復を試してくだ さい(220ページ)。



障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

- □ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定に関わらず、自動的に再起動する場合や 再起動しない場合があります。
 - → 再起動しない場合は、手動で再起動してください。



説明(D)

クラッシュ ダンプを使用できません。NTはクラッシュ ダンプに対してプート パーティションのページファイル を初期化できませんでした。システムに物理メモリが3.8GB以上あることが原因の可能性があり ます。



このログはWindows NT 4.0を使用している場合のものです。Windows 2000ではログが残らない場合がありますが、障害が起きた際に原因を早急に 確認できるよう以下の説明と同様の解決手段をとっておくことをお勧めします。Windows 2000でのページングファイルサイズの説明については、32 ページをご覧ください。

- □ メモリの増設をしていませんか?
 - → メモリを増設した場合は、ページングファイルのサイズも増やす必要があります。増設したメモリに相応するようにページングファイルのサイズを設定し直してください。

ページングファイルサイズは、搭載メモリ+12MB以上が基本です。

必ずOSパーティションに上記サイズを確保してください。STOPエラー発生時 にメモリダンプを採取するために必要です。

OSの動作が不安定

システムのアップデートを行いましたか?

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が 不安定になることがあります。21ページを参照してシステムをアップデートしてください。



② スリープ<u>機能が働かない</u>

- □ オプションボードを実装していますか?
 - → オプションボードが実装されている時はオプションボードがスリープ機能に対 応しているかご確認ください。
- □ OSは何を使用していますか?
 - → Windows NT 4.0では機能しません。

ネットワーク上で認識されない

- □ ケーブルを接続していますか?
 - → Expressワークステーション背面にあるネットワークポートに確実に接続して ください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準 拠したものであることを確認してください。
- □ BIOSの設定を間違えていませんか?
 - → ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLAN コントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティ で設定を確認してください。 <確認するメニュー: 「Advanced」→ [Peripheral Configuration」→ [LAN Controller]>
- □ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか?
 - → Expressワークステーション専用のネットワークドライバをインストールして ください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確 実に設定されていることを確認してください。
- □ 転送速度の設定を間違えていませんか?
 - → Expressワークステーションに標準で装備されている内蔵のLANコントローラ は、転送速度が100Mbpsと10Mbpsのどちらのネットワークでも使用するこ とができます。この転送速度の切り替えまたは設定はOS上から行えますが、 「Auto Sense という機能は使用せず、「100 または「10 のどちらかに設定し てください。
- □ システムのアップデートをしましたか?
 - → オペレーティングシステムをインストールした後にネットワークドライバをイ ンストールした場合は、システムのアップデートをしなければ正しく機能しま せん(21ページ)。

CD-ROM/RWドライブ内で媒体の回転音が大きい

- □ いったん、CD-ROM/RWを取り出し、再度CD-ROM/RWをセットし直してくださ い。
 - → CD-ROM/RWドライブのオートバランス機構を再度機能させることで、回転音 をおさえます。

Windows 2000で、MIDI音楽の再生時にSTOPエラーが起きる

- □ MIDIの優先するドライバを「Microsoft GS Wavetable SW Synth」に設定していますか?
 - → MIDIの優先するドライバは、「Microsoft GS Wavetable SW Synth」に設定していない場合は、以下のようなSTOPエラーが発生する場合があります。17 ページを参照して、設定してください。設定後も再現する場合は、保守サービス会社の保守員に連絡ください。

*** STOP: 0x000000D1 (0x00000168,0x00000002,0x00000001,0xBFC84627) DRIVER_IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL

🌮 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

- □ コントロールパネルの[システム]で障害発生時に「自動的に再起動する」よう設定しても、自動的に再起動しない場合があります。
 - → 再起動しない場合は、手動で再起動してください。



「自動的に再起動する」の設定は、使用しているOSによって異なります。

Windows 2000の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細]→[起動/回復]で設定します。

Windows NT 4.0の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[起動/シャットダウン]で設定します。

CD-RWについて

② CD-RWが認識されない

- □ IDEケーブルが正しく接続されていますか?
 - → IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピ ンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。
- □ 本体のBIOSにCD-RWが正しく設定されてますか?
 - → 本体のBIOSの設定を確認してください。
- □ ジャンパが正しく設定されていますか?
 - → CD-RWのジャンパが「マスタ」に設定されているか確認してください。
- □ 電源が入っていますか?
 - → 本体の電源を入れた時、CD-RWのビジーLEDが点灯することを確認してくださ い。点灯しない場合は、電源が接続されていない可能性があります。電源ケー ブルが正しく接続されているか確認してください。
- □ 添付のライティングソフトを使用していますか? → 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。

2) 動作しない

- □ 電源が入っていますか?
 - → 電源コネクタに電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- □ IDEケーブルが正しく接続されていますか?
 - → IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピ ンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。

😮 書き込みができない

- □ 添付のライティングソフトを使用していますか? → 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。
- □ 推奨以外のメディアを使用していませんか? → 弊社推奨もしくは弊社指定のメディアを使用してください。
- □ メディアが裏表に入っていませんか? → メディアのトップレーベルを上にして入れ直してください。
- □ ハードディスクの容量が不足していませんか?
 - → 書き込む方式によってハードディスクの使用量は違いますが、一般的には書き 込むデータ量の1.2倍~2倍の空き容量が必要です。
- □ 電源が入っていますか?
 - → 電源コネクタに電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- □ IDEケーブルが正しく接続されていますか?
 - → IDEケーブルが正しく接続されているか確認してください。ケーブルを調べてピ ンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。

書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する

- □ ネットワーク環境下での書き込みを行ったり、マウスやウィンドウ、スクリーン セーバを動かしたり、他のアプリケーションが立ち上がっていて、コンピュータの リソースが不足していませんか?
 - → ネットワークからログオフして、書き込みを行ってください。
 - → スクリーンセーバ、省電力モードを解除してください。
 - → ライティングソフト以外のアプリケーションを終了してください。
- □ ハードディスクの容量が不足していませんか?
 - → 書き込む方式によってハードディスクの使用量は違いますが、一般的には書き 込むデータ量の1.2倍~2倍の空き容量が必要です。
- □ メディアに傷、品質不良はありませんか?
 - → メディアに傷、ほこり、品質不良がある可能性があります。メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みメディアを使用してください。
- 🖉 CD-RWディスクのデータを消去したのに書かれた跡がある
 - □ 問題ではありません。
 - → CD-RWディスクは一度書き込みがされると、消去しても書き込んだ跡があります。

「高速倍速での書き込みができない」

- □ メディアが対応している倍速ですか?
 - → デバイスがサポートしている倍速にあったメディアを使用してください。
- □ バッファアンダーランが起きてませんか?
 - → 「書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する」を参照してください。
- □ メディアに傷や品質不良がありませんか?
 - → メディアを交換して確認してください。弊社推奨もしくは動作確認済みのメ ディアをご使用ください。
- □ ライティングソフトがCD-RWに対応していますか?
 - → 本装置に添付のライティングソフトを使用してください。

② メディアに追記できない

- □ ライティングソフトが違っていませんか?
 - → 先に書き込んだライティングソフトと、今回使用するライティングソフトが異なると、書き込めないことがあります(ライティングソフト互換性による)。書き込むライティングソフトは、なるべく同じものをご使用ください。
- □ 追記データに対して、空き容量が足りていますか?
 - → 1枚のメディアに書き込める情報量は、TOCおよびリードイン、リードアウト のデータを含めて650MB(74分タイプ)です。追記するデータに対して、空き 容量が不足する場合は、新たに別のメディアを使用してください。
- □ 他社のCD-R/RW装置で記録したメディアを使用していませんか?
 - → 本装置で書き込んだメディアを使用してください。
- □ ディスクアットワンスで書き込まれたメディアまたはトラックアットワンスで書き
 込み後、CDクローズされたメディアを使用していませんか?
 - → 以前の書き込み時に、追記ができないように設定されています。新たに新規の メディアを使用してください。

?

2回以上書き込んだメディアの前のセッションが読み出しできない

- □ ライティングソフトで前のセッションが読み出されていますか?
 - → ライティングソフトで前のセッションが読み出されていない状態で記録された メディアは、原則として最後のセッションしか読み出しできません。
 2回目以降に書き込むときは、前のセッションを読み出し、マルチセッション として書き込んでください。前のセッションを読み出さないと、以前に書いた セッションが無効となります。
 前回書き込んだデータのセッションが閉じられており、追記されたセッション が読めなくなっています。新たにメディアにデータを書き直してください。
- □ メディアに不良がありませんか?
 - → メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある 場合は、メディアをクリーニングしてください。
- □ 音楽CDをセットしていませんか?
 - → 音楽CDはコンピュータのデータと違いますので、セッションの読み出しを実 行する時に音楽CDが挿入されているとエラーメッセージがでてしまいます。
- □ メディアが裏表を間違えてセットしていませんか?
 - → トレイからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。

😮 読み出し時に異音が発生する

- □ メディアに不良がありませんか?
 - → 他のメディアを使用してください。
- □ メディアの表面にシールが貼っていませんか?
 - → 表面のシールをはがしてください。はがすときは、メディアに傷が付かないように注意してください。

🕜 <u>リードエラー(読み出しエラー)が発生する</u>

- □ メディアに不良がありませんか?
 - → メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある 場合は、メディアをクリーニングしてください。
- □ 音楽CDをセットしていませんか?
 - → 音楽CDにはデータが入っていないため、エラーメッセージが表示されます。 データCDを入れてください。
- □ メディアが裏表を間違えてセットしていませんか?
 - → トレイからメディアを出し、メディアのトップレーベルを上にしてセットし直してください。
- □ パケットライトで書き込まれていませんか?
 - → パケットライトで書き込まれたデータを読むためには専用のソフトウェアが必要となります。



- フォトCDに関して ~画像を読み込んでいるときに、エラーが発生する~
- フォトCDに関して ~マルチセッションであるのに、最初のセッションしか読めない~
 - □ デバイスドライバが、フォトCD対応になっていますか?
 → デバイスドライバメーカに確認し、対応した最新のドライバを入手してください。
 - □ フォトCDディスクに欠陥のないものですか?
 - → 他のフォトCDディスクを読み込んでみて同様の問題が発生しないか確認して ください。他のフォトCDディスクが読めた場合は、そのメディアに欠陥があ ることが考えられます。

🕑 外部スピーカから音楽CDの音が出ない

- □ サウンドボードが正常に機能していますか?
 - → 本装置のオーディオ出力コネクタにアンプ付き外部スピーカを接続し、音楽 CDをセットして再生してください。音が出ればドライブは正常です。本装置 と外部スピーカがオーディオケーブルで正しく接続されているか確認してく ださい。本装置側のケーブルがオーディオ入力コネクタ(ラインイン)に接続さ れていると、サウンド機能は正常に機能しません。オーディオ出力コネクタに 正しく接続してください。サウンドドライバがインストールされているか確認 してください。

🕜 本装置から出る音のレベルが低い

- □ サウンドボードと本装置のオーディオケーブルが正しく接続されていますか?
 - → オーディオミキサのマスター、CD、ラインのレベルが正しいか確認してくだ さい。

いくつかのオーディオミキサがインストールされている場合でも、上記のそれ ぞれのレベルが正しいかを確認してください。

?) ディスクトレイが出ない

- ディスクトレイにメディアが正しくセットされていますか?
 - → エマージェンシーイジェクトホールにイマージェンシースティックを差して、
 ディスクトレイを出してください。
- □ ソフトウェアでイジェクトロックされていませんか?
 - → Windows環境をお使いの場合は、CD-ROMのプロパティでイジェクトロック されていないか確認してください。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しましたか?

- → POSTを実行中にEXPRESSBUILDERをセットし、再起動しないとエラーメッセージ が表示されたり、OSが起動したりします。
- □ BIOSのセットアップを間違えていませんか?
 - → ExpressワークステーションのBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROM/RWドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、 右のようなメッセージが表示されます。エラーコードを記 録して保守サービス会社に連絡してください。 エラーコードと意味は次のとおりです。

エラーが発生しました。 エラーコード [XX] 終了します。 確認]

エラーコード	原因と処理方法
MC	EXPRESSBUILDERの対象マシンではありません。対象マシンで実行してく ださい。
NV	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
PT	ハードディスクが接続されていないか、ハードディスクが異常です。ハード ディスクが正常に接続されていることを確認してください。
FL	フロッピーディスクが読み書きできない可能性があります。新しいフロッ ピーディスクに交換して、再度実行してください。

この他にもシステムの再セットアップやシステム診断を実行したときに障害を検出するとエ ラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージをメモまたはプリントアウトし、保 守サービス会社までご連絡ください。

シームレスセットアップについて

<u><Windows 2000/Windows NT 4.0共通></u>

 指定したパーティションサイズよりも小さい容量のハードディスクを使用してインス トールしようとしたときに以下のメッセージが表示された。

指定されたパーティションサイズが確保できなかったため、 確保できる最大サイズでパーティションを作成しました。
OK

→ 異常ではありません。<Enter>キーを押してインストールを続けてください。

?

CD-ROMからファイルをコピー中に次のメッセージが表示された。

→ <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示されるときは、CD-ROMを入れ直してから<R>キーを押してください。それでもうまくいかない場合 は、シームレスセットアップをはじめからやり直してください。



自動インストールが中断し、セットアップ情報を入力するように求められた。

→ 設定したセットアップ情報に間違いがあります。メッセージに従って正しい値を入 力してください。インストールをキャンセルする必要はありません。Windows 2000ではセットアップの最後のリブートで再度、<Enter>キーの入力を要求され ることがあります。



→ ここで[終了]ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの 既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

<Windows 2000の既定値>

ネットワークプロトコルの設定

プロトコル: TCP/IP [DHCP指定] サービス: Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有 の選択 クライアント: Microsoftネットワーク用クライアント コンポーネント: SNMP、IIS(Professionalを除く)

アプリケーション: ESMPRO/ServerAgent エクスプレス通報サービス GAM Server (Mylex DACを接続時) GAM Client (Mylex DACを接続時) Array Recovery Tool (Mylex DACを接続時)

自動クリーンアップツール(Mylex DACを接続時)

* DAC: ディスクアレイコントローラ

<Windows NT 4.0の既定値>

ネットワークの設定

標準のネットワークアダプタ
TCP/IP [DHCP指定]
SNMP、IIS(Workstationを除く)
ESMPRO/ServerAgent
エクスプレス通報サービス
GAM Server(Mylex DACを接続時)
GAM Client(Mylex DACを接続時)
Array Recovery Tool(Mylex DACを接続時)
自動クリーンアップツール(Mylex DACを接続時)
* DAC: ディスクアレイコントローラ



? 「コンピュータの役割」画面で「終了」ボタンが表示されない。

- → 作成済みのセットアップ情報ファイルをロードした場合は表示されません。
- → 「終了]ボタンは、最初に「コンピュータの役割] 画面に移ったときにのみ表示されま す。一度でも「コンピュータの役割]から先の画面に進むと「戻る]ボタンを使用し て、[コンピュータの役割]画面に戻っても、[終了]ボタンは表示されません。
- ② パーティションサイズを8000MBと指定したのに、Windows NTまたはWindows 2000起動後に確認してみると7553MBしか確保されていない。
 - □ IDEディスクにOSをインストールしていませんか?
 - → ディスクによっては、8000MBを指定しても最大で7553MBしか作成されないこ とがあります。

「プログラムの終了・・・CSC Notifications Window」ダイアロ<u>グボックスに「このプ</u> ログラムは応答していません」というメッセージが表示される場合がある

→ 自動的にシャットダウンが行われ、システムのリカバリが続行されます。

<Windows 2000のみ>

パーティションサイズに大きな値を指定したのに、実際にWindows 2000を起動し てみると、2000MBでシステムパーテ<u>ィションが作成されている。</u>

→ 「パーティションサイズ |で実領域以上の値を設定していませんか? 全領域(保守領域を除く) を1パーティションで作成したい場合は「全領域」を設定するようにしてください。

ディスプレイの解像度として指定したものと違う<u>解像度でWindows 2000が起動さ</u> れた。

→ ディスプレイの解像度は、指定された設定が使用できなかった場合、それに近い設 定かまたはドライバのデフォルト値が使用されます。

Ŷ 間違ったプロダクトID/CDキーを入力してしまった。

→ 間違ったプロダクトID/CDキーを入力しても、自動インストールは開始します。し かし、自動インストール中にストップ、再入力を促されます。また、この場合、自 動インストール中のGUIセットアップ終アのリブート時に入力要求が発生します。 これら2回の入力を行えば、Windows 2000のセットアップには問題はありませ ho

ログオン時に「デジタル署名が見つかりませんでした」ダイアログボックスに以下のメッ セージが表示される場合がある

Microsoftデジタル署名によって、ソフトウェアがWindows上でテストされ、 その後変更されていないことが保証されます。

□ 問題ありません。

→ [はい]ボタンをクリックし、メッセージに従って続行してください。

[□] 問題ありません。

→ 複数のプロトコルを設定していませんか?

この場合複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト設定になってしまいます。OS起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

ネットワークアダプタの詳細設定ができない。

→ シームレスセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。
 Windows 2000起動後、コントロールパネルから設定してください。

シームレスセットアップで設定しなかったネットワークアダプタの設定が行われて Windows 2000が起動された。

→ Windows 2000は認識したネットワークアダプタは既定値に設定してインストー ルします。設定の変更は、Windows 2000起動後、コントロールパネルから行え ます。また、シームレスセットアップで設定したが、実際に接続されていなかった 場合、アダプタのセットアップは行われませんが、プロトコルのインストールだけ は行われます。

複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したの に、どのアダプタもすべてのプロトコルが設定されている。

→ 仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコルすべてが使用できるよう に設定されます。シームレスセットアップで設定できないものは、すべて既定値に なります。

複数枚ネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IPプロトコルの詳細設定がすべ てDHCPを使用するになっている

→ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定がすべて 既定値になることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。

<Windows NT 4.0のみ>

- インストール中にエラーメッセージが表示され、ESMPRO/ServerAgentとIIS(イ ンターネットインフォメーションサーバ)のインストールができない。
 - → Windows NTのインストール終了後、ESMPRO/ServerAgentとIISをインストー ルしてください。
- 複数枚のネットワークボードを接続しネットワークドライバをインストールしたが、
 Windows NT起動後、ネットワークボードが1枚しか正常に動作しない。また、イベ
 ントビューアに「I/Oポートの競合が発生しました。」というメッセージが表示された。
 - → コントロールパネルからネットワークアダプタの設定を変更してください。

2 セットアップ情報の設定で複数枚のネットワークボードを接続しているが、ネット ワークアダプタごとにTCP/IPの設定ができない。

→ DHCP設定でインストールしてください。仮のIP構成にする場合は、いったん DHCP設定でインストールしてから、インストール終了後にコントロールパネルか ら設定し直してください。

インストール中に以下のメッセージが表示された。

システムのレジストリのクォータが不足しています。 レジストリクォータを増やすには、コントロールパネルの [システム]を起動して[仮想メモリ]をクリックして ください。

→ ログオン後、メッセージに従ってレジストリクォータの値を変更してください。

④ 4GBを越えるパーティションを作成できない。

- □ 設定情報の入力で足りないものはありませんか?
 - → [ユーザ情報]の[会社名]を入力していないと4GBを越えるパーティションは作 成できません。

Service Packのアンインストールができない。

- □ OSをインストールするパーティションを、4GBを超えるサイズで作成していませんか?
 - → 4GBを超えるパーティションにWindows NTをインストールするためには Service Packのモジュールが必要です。この場合はWindows NT起動後も Service Packをアンインストールできません。

〕 正しいCD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される

CD-ROMが挿入されていないか、誤った CD-ROMが挿入されています。 正しいCD-ROMを挿入してください。
OK

- □ CD-ROMのデータ面が汚れていたり、傷ついていたりしていませんか?
 - → CD-ROM/RWドライブからCD-ROMを取り出し、よごれ、傷などがないことを 確認してから、再度CD-ROMをセットし、[OK]ボタンをクリックしてくださ い。

マスターコントロールメニューについて

オンラインドキュメントが読めない オンラインドキュメントが読めない

- □ HTMLブラウザが正しくインストールされていますか?
 - → オンラインドキュメントは、HTML文書です。あらかじめHTMLブラウザ (Internet Explorer 5.x以降)をご使用のオペレーティングシステムヘインストー ルしておいてください。
- □ HTMLファイルの関連付けは正しいですか?
 - → オンラインドキュメントはCD-ROM上のローカルファイルをアクセスします。 Internet ExplorerとNetscape Communicatorが共存しているとHTML文書の 拡張子(.htm、.html)がブラウザに正しく関連付けられていないことがありま す。次の手順で(Internet Explorer 5.0の場合)関連付けを設定してください。
 - 1. Internet Explorerを起動する。
 - 2. Internet Explorerのメニューから、[ツール]-[インターネットオプション] を選択する。
 - 3. [プログラム]タブをクリックし、[Webの設定のリセット]ボタンをクリック する。
 - 4. 確認のダイアログボックスが現れるので[はい]ボタンをクリックする。
- □ Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか?
 - → オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader (Version 4.05以上)をご使用のオペレーティングシステムヘインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、[ソフトウェアのセットアップ]の[Adobe Acrobat Reader]を選択してください(インストール後、Acrobat Readerを起動して使用許諾契約書に同意してからご使用ください)。

② オンラインドキュメントの画像が見にくい

- □ 使用しているディスプレイは、256色以上の表示になっていますか?
 - → ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色 以上の表示ができる環境で実行してください。

<u> マスターコントロールメニューが表示されない</u>

- □ ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降またはWindows 95以降ですか?
 - → CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動し ません。ご注意ください。
- □ <Shift>キーを押していませんか?
 - → <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセ ルされます。
- □ システムの状態は問題ありませんか?
 - → システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメ ニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの ¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。

ExpressPicnicについて



② セットアップ情報の設定でExpressPicnicウィンドウのビットマップが正しく表示さ れない(Trekkingコマンド使用時)。

→ ディスプレイの設定の色数が256色未満の場合はビットマップが正しく表示されて いませんが、セットアップ情報は正しく表示できます。



- セットアップ<u>情報の設定でディスプレイの解像度が設定できない。</u>
 - → インストール時、解像度は各ドライバの既定値で設定されます。Windows NTのイ ンストール終了後、コントロールパネルを使用して設定し直してください。

セットアップ情報の設定で複数枚のネットワークボードを接続しているが、ネット ワークアダプタごとにTCP/IPの設定ができない。

→ DHCP設定でインストールしてください。仮のIP構成にする場合は、いったん DHCP設定でインストールしてから、インストール終了後にコントロールパネルか ら設定し直してください。

ESMPROについて



ESMPROで思うように監視できない・動作しない

もしくは[ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」をご覧くださ $()_{\circ}$

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができま す。



イベントログの採取

Expressワークステーションに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作 業を始めます。

Windows 2000の場合

Windows 2000を使用しているExpressワークステーションに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

- コントロールパネルから[管理ツール] [イベントビューア]をクリックする。
- 2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ]には起動してい たアプリケーションに関連するイベント が 記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベン トが記録されています。[システム ログ] にはWindows 2000のシステム構成要素 で発生したイベントが記録されていま す。

- 3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を 付けて保存]コマンドをクリックする。
- 4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカ イブログファイルの名前を入力する。
- 5. [ファイルの種類]リストボックスで保存 するログファイルの形式を選択し、[OK] ボタンをクリックする。



詳細についてはWindows 2000のオンラインヘルプを参照してください。

Windows NT 4.0の場合

Windows NT 4.0を使用しているExpressワークステーションに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

- スタートメニューから[プログラム]-[管 理ツール]-[イベントビューア]をクリッ クする。
- 2. [ログ]メニューから採取するログの種類 を選択する。

[システム]にはWindows NTのシステム 構成要素で発生したイベントが記録され ています。[セキュリティ]にはセキュリ ティに関連するイベントが記録されてい ます。[アプリケーション]には起動して いたアプリケーションに関連するイベン トが記録されています。

- 3. [ログ]メニューの[名前を付けて保存]コ マンドをクリックする。
- 4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカ イブログファイルの名前を入力する。
- 5. [ファイルの種類]リストボックスで保存 するログファイルの形式を選択し、[OK] ボタンをクリックする。



詳細についてはWindows NTのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

Expressワークステーションのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

Windows 2000の場合

- スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。

[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。

- 3. [システムツール]-[システム情報]をクリックする。
- 4. [操作]メニューの[システム情報ファイル として保存]コマンドをクリックする。
- 5. [ファイル名]ボックスに保存するファイ ルの名前を入力する。
- 6. [保存]ボタンをクリックする。



運用・保守編

Windows NT 4.0の場合

- 1. スタートメニューから[プログラム]ー[管 理ツール]ー[Windows NT診断プログラ ム]をクリックする。
- [ファイル]メニューの[レポートの保存]
 コマンドをクリックする。
- 3. 作成するレポートの詳細を設定する。

[範囲]を[すべてのタブ]に設定します。 [詳細レベル]を[完全]に設定します。 [出力先]を[ファイル]に設定します。

- **4.** [ファイル名]ボックスに保存するファイ ルの名前を入力する。
- 5. [OK]ボタンをクリックする。



ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。 診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは26ページの「ワトソン博士の設定」を参照 してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合 は、ラベルにどのアプリケーションを使用して保存したかを示すアプリケーション名 (「Windows2000 バックアップツール」や「NTBackup」、「ARCServe」など)を記載してお いてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは22ページの「メモリダン プ(デバッグ情報)の設定」を参照してください。

- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているとき に操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
 - 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときに DUMPスイッチを押してください。スイッチを押 すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引 き伸ばして代用可)をスイッチ穴から斜めに差し込 んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている 保存先に保存されます(CPUがストールした場合な どではメモリダンプを採取できない場合がありま す)。



NVRAMの情報の採取

NVRAMの情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

- スタートメニューから[プログラム] [ESMPRO ServerAgent] [ESRASユーティリティ]を選ぶ。
 [ESRASユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。
- [管理]ボタンをクリックする。
 [NVRAM管理]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [退避]タブをクリックする。
- 4. [退避対象ファイル名]グループの[本体HW]チェックボックスをチェックする。
- 5. 退避するファイル名と保存する場所を指定して、[退避]ボタンをクリックする。

システムの修復

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「バックアップCD-ROM」を使ってシステムを修復してください。

- システムの修復後、「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ(Windows 2000の場合は15ページ、Windows NT 4.0の場合は18ページ)」、「システムの アップデート(21ページ)」を参照して必ず各種ドライバおよびシステムをアップデート してください。
 - ハードディスクが認識できない場合は、システムの修復はできません。
 - OSの再インストールを行っている間にシステム修復ディスクを使ったシステムの修復 をするかどうかを確認するメッセージが表示されます。システム修復ディスクではな く、ディスクの中の情報を使って修復してください。
 - Windows NT 4.0をご使用の場合は、システムの修復のもととなる修復情報は、システムを更新したときなどには必ず更新してください。(修復情報の更新方法については、27ページの「システム修復情報の更新」を参照してください。)

修復手順 ~Windows 2000~

Windows 2000を使用している場合は、以下の手順でシステムの修復を行います。



Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER (フロッピーディスク)が必要とな る場合があります。「ソフトウェア編」の「EXPRESSBUILDER」を参照して作成してくだ さい。「マスターコントロールメニュー(145ページ)」の[ソフトウェアのセットアップ] から表示されるメニューからも作成できます。

- 1. バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。
- 2.. コンピュータを再起動する。

ディスクアレイコントローラ(N8103-52)を接続している場合は、手順3に進んでください。

3. 次のメッセージが表示されたら<F6>キーを押す。

Setup is inspecting your computer's hardware configuration

4. 次のメッセージが表示されたら<S>キーを押す

Windows 2000 Setup

Setup could not determine the type of one or more mass storage device installed in your system, or you have chosen to manually specify an adater. Currently, Setup will load support for the following mass storage decice(s):

5. 次のメッセージが表示されたら、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフ ロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

> Please insert the disk labeled manufacture supplied hardware support disk into Drive A:

> > * Please ENTER when ready.

- 6. SCSIアダプタのリストが表示されたら、以下のいずれかを選択し、<Enter>キーを押す。
 <ディスクアレイコントローラ(N8103-52)の場合>
 [Mylex AcceleRAID 160 Disk Array Controller]
- 7. 次のメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押す。

Setup will load support for the following mass storage device(s):

- 8. メッセージに従って操作する。
- 9. テキストベースのセットアップが始まったら、画面の指示に従って操作を進める。
- 10. <R>キーを押して修復オプションを選択する。
- 11. キーボードの種類を選択する。
- 12. 選択を求められたら、<R>キーを押してシステム修復処理を選択する。
- 13. 選択を求められたら、次のうちのどちらかを選択する。

[手動修復](<M>キーを押す) 高度なユーザーかシステム管理者以外はこのオプションを選択しな いでください。このオプションを使うと、システムファイル、パー ティションプートセクタ、およびスタートアップ環境の問題を修復 することができます。

- [高速修復](<F>キーを押す) このオプションは使い方がとても簡単で、ユーザーは何もする必要はありません。このオプションを選択すると、システム修復ディスクプログラムが、システムファイル、システムディスクのパーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境(システムに複数のオペレーティングシステムがインストールされている場合)に関連した問題の修復を開始します。
- 14. 画面に表示される指示に従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面では、 <L>キーを押す。

ディスクの検査後、システムは一度再起動されます。

チェック

システム修復ディスクを使用しない処理を行います。

15. 手順1~14を繰り返す。

修復処理が開始されます。

修復処理の間に、見つからないファイルや破損したファイルが、ハードディスク上C:¥I386の ファイルかシステムパーティションのsystemroot¥Repairフォルダのファイルに置き換えられま す。こうして置き換えられたファイルは、セットアップ以降に行った構成の変更を一切反映して いません。 16. 画面に表示される指示に従って操作する。

障害が検出されたファイルの名前を控えておくと、システムがどのように破損していたのかを診断するのに役立ちます。

17. 修復に成功した場合は処理を終了する。

コンピュータが問題なく再起動した場合は、置き換えられたファイルがハードディスクに正しく コピーされたことがわかります。

修復手順 ~Windows NT 4.0~

Windows NT 4.0を使用している場合は、以下の手順でシステムの修復を行います。

システムの修復

- 1. バックアップCD-ROMをCD-ROM/RWドライブにセットする。
- 2. コンピュータを再起動する。
- 3. システムの電源ON後、画面が以下のどちらかの状態のときに<F6>キーを押す。
 - セットアップは、コンピュータのハードウェア構成を検査しています…の表示中
 - 青一色の画面の表示中

次のメッセージ*が表示されます。

Windows NTセットアップ セットアップはシステムにインストールされている1つ以上の大容量記憶 装置に種類を判断できませんでした。また、アダプタの手動指定が選択 されています。次の大容量記憶装置をサポートするドライバを読み込みます。

- * 上記メッセージが表示されない場合は<F3>キーを押してセットアップを終了し、もう一度 手順2からやり直してください。
- **4**. <S>キーを押す。
- 5.「その他」を選択し、<Enter>キーを押す。
- 6. 「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER #1」をフロッピーディスクドライブに セットし、<Enter>キーを押す。
- 7. [Adaptec Ultra 160/m Family PCI SCSI Controller]を選び、<Enter>キーを押す。
- 8. ディスクアレイコントローラ (N8103-52)を接続している場合は、手順4から6を繰り返し、 [Mylex AcceleRAID 160/352 Disk Array Controller]を選び、<Enter>キーを押す。
- 9. 検出した大容量記憶装置が表示されるので、<Enter>キーを押して続行する。
- 10.「セットアップへようこそ」というメッセージが表示されたら、<R>キーを押して修復オプション を選択する。

11. メッセージに従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面で<Esc>キーを押す。

「ハードディスクの次のディレクトリにWindows NT が見つかりました。」というメッセージが 表示されます。

12. <Enter>キーを押す。

ハードディスクの検査を行うかどうか選択するメッセージが表示されます。

- **13.** <Esc>キーを押す。
- 14. 修復するレジストリファイルを選択し、続行する。
- 15. <A>キーを押し、非オリジナルファイルをすべて修復する。
- 16. メッセージに従って続行する。
- 17. 修復に成功した場合は処理を終了する。

コンピュータが問題なく再起動した場合は、置き換えられたファイルがハードディスクに正しく コピーされたことがわかります。

₩-O III

システム修復の途中で、次のメッセージが表示される場合があります。<Esc>キーを押して、 処理を取り消してください。ネットワークドライバの修復は、「ネットワーク関連の修復」に従っ て行ってください。

次のラベルの付いたディスクを、ドライブA:に挿入してください。

Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk

・準備ができたらEnterキーを押してください。

ネットワーク関連の修復

ネットワークドライバの修復は次の手順で行います。

- スタートメニューから[設定]-[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]が表示されます。
- [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。
 [ネットワーク]が表示されます。
- 3. [アダプタ]タブをクリックする。
- **4.** [ネットワークアダプタ]ボックスに表示されているネットワークアダプタ一覧から必要なネット ワークアダプタを選択し、[更新]ボタンをクリックする。
- 5. ネットワークドライバが入っているディスクをセットする。
- 6. ネットワークドライバのディレクトリのパスを入力し、[続行]ボタンをクリックする。

オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、Expressワークステーションの予防保守、障害解析を行うためのユー ティリティです。ESMPROが起動できないような障害がExpressワークステーションに起きた場合は、オ フライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン
 保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)があ りますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保 守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。
 - オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントからExpressワークス テーションへアクセスできなくなります。

オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティはさまざまな方法で起動することができます。 オフライン保守ユーティリティは手動で起動することもできますが、障害発生時に自動起動 させることもできます。

● EXPRESSBUILDERからの起動

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」から「ツール」ー「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択すると、CD-ROMよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● フロッピーディスクからの起動

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツール」ー「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守 ユーティリティが起動します。

● 手動起動(F4キー)

オフライン保守ユーティリティをインストール後、本装置の起動時の画面で<F4>キーを 押すと、ディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● 手動起動(ESMPROからの操作)

ESMPRO/ServerAgentで「システム再起動後ただちにオフライン保守ユーティリティを 起動する」に設定して再起動すると、ハードディスクよりオフライン保守ユーティリティ が起動します。

● 自動起動(OS運用中の障害)

OS動作中に致命的障害が発生し、シャットダウン後、再起動するとオフライン保守ユー ティリティが自動的に起動します(あらかじめ、ESMPRO/ServerAgentで、「障害発生 時、オフライン保守ユーティリティを起動する」に設定をしておく必要があります)。

オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます(起動方法により、 実行できる機能は異なります)。

● HWログの編集表示

HWログの編集表示では「HWログの表示/テキストファイルへの出力」、「HWログ領域の 初期化」といったExpressワークステーションのハードウェアに関する情報の確認や操作 を行えます。

SWログの編集表示

SWログの編集表示では「SWログの表示/テキストファイルへの出力」、「SWログのクリア」、「SWログ領域の初期化/制御情報の表示」といったExpressワークステーションの ソフトウェアに関するエラー情報の確認や操作を行えます。

● HWイベントログの編集表示

HWイベントログの編集表示では「HWイベントログの表示/テキストファイルへの出 力」、「HWイベントログ領域の初期化/制御情報の表示」といったExpressワークステー ションのハードウェア上で起こった情報の確認を行えます。

BIOSセットアップ情報の表示

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

● システム情報の表示

プロセッサやBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

● システム情報の管理

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしてお かないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、28ページで説明しています。なお、リ ストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

● リモート保守の設定

自動通報やページャコール、リモート接続を行うためのパラメータを設定します。

● テスト通報

自動通報やページャコールのテストを行います。

● リモート端末の接続

リモート端末からの接続待ちの状態になります。リモート端末から接続し、オフライン 保守ユーティリティを操作することができます。

● 各種ユーティリティの起動

EXPRESSBUILDERから保守用パーティションにインストールされた以下のユーティリ ティを起動することができます。

- システム診断ユーティリティ
- 保守用パーティションの設定

自動通報・ページャコール・リモート保守について ヒント オフライン保守ユーティリティが起動したときに自動通報やページャコールを行うように することができます。また、リモート端末から接続して、オフライン保守ユーティリティを 操作することもできます。 自動通報、ページャコール、リモート接続は「COMポート→モデム→公衆回線 |を介して行 います。 また、自動通報、ページャコール、リモート接続をする場合には、「リモート保守の設定」 で各種パラメータを設定する必要があります。 自動通報: NEC独自のプロトコル(ALIVE-III)に従い、メッセージを送信します。 自動通報は、NECの保守センターまたはESMPRO/ServerManagerで受 信することができます。NECの保守センターに自動通報を行う場合には 保守契約が必要です。 本機能により、保守員やシステム管理者に、システムの障害発生を即時 に通知することができます。 あらかじめ設定されているメッセージをページャに送信します。 ページャコール: 本機能により、システム管理者に、システムの障害発生を即時に通知す

ることができます。

リモート保守: リモート端末(ANSI端末)からExpressワークステーションに接続し、オ フライン保守ユーティリティを操作することができます。 保守サービス会社からリモート保守を行う場合には別途保守契約を結ぶ 必要があります。 本機能により、遠隔地からシステムの障害解析を行うことができます。

移動と保管

Expressワークステーションを移動・保管するときは次の手順に従ってください。

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い求めの販売店または保守 サービス会社に連絡してください。
 - ハードディスクに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
 - ハードディスクを内蔵している場合はハードディスクに衝撃を与えないように注意して Expressワークステーションを移動させてください。
- 1. フロッピーディスク、CD-ROM/RWをセットしている場合はExpressワークステーションから取り出す。
- 2. Expressワークステーションの電源をOFF(POWERランプ消灯)にする。
- 3. Expressワークステーションの電源プラグをコンセントから抜く。
- 4. Expressワークステーションに接続しているケーブルをすべて取り外す。
- 5. Expressワークステーションに傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包 する。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

保証について

Expressワークステーションには『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事 項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期 間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しく は『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。 保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に

連絡してください。

- ■● NEC製以外(サードパーティ)の製品、NECが認定していない装置やインタフェース ケーブルを使用したために起きたExpressワークステーションの故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 本体に製品の形式、SERIAL No.(製造番号)、定格、 製造業者名、製造国が明記された銘板が貼ってありま す。お買い求めの販売店にお問い合わせする際にこの 内容をお伝えください。また銘板の製造番号と保証書 の保証番号が一致していませんと、装置が保証期間内 に故障した場合でも、保証を受けられないことがあり ますのでご確認ください。万一違う場合は、お買い求 めの販売店にご連絡ください。



修理に出される前に

「故障かな?」と思ったら、以下の手順を行ってください。

- 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認 します。
- ②「障害時の対処(190ページ)」を参照してください。該当する症状があれば記載されてい る処理を行ってください。
- ③ Expressワークステーションを操作するために必要となるソフトウェアが正しくインス トールされていることを確認します。
- ④ 市販のウィルス検出プログラムなどでExpressワークステーションをチェックしてみて ください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最 寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際にExpressワークステーショ ンのランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプや ディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サー ビス会社の連絡先については、付録「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。 なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



このExpressワークステーションは日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理すること はできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- □ 保証書
- □ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- □ 障害情報*
- □ 本体 · 周辺機器の記録
 - * 215ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社 から指示があったときのみ用意してください。

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスはNECの保守サービス会社およびNECが認定した保守サービス会社によっての み実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご 都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で 承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意してお ります。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。 この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていた だくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。 さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧 ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守ま たは修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なりま す。

契約保守サービスでは、お客様に合わせて以下の契約保守サービスを用意しております。

□□□□□
 □□□□□
 □□□□□
 □□□□□
 □□□□
 □□□□
 □□□□
 □□□□
 □□□
 □□□
 □□□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □□
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 □
 <

ハードウェアメンテナンスサービス

維持保守

定期的な点検により障害を予防します。(定期予防保守) また、万一障害発生時には保守技術者がすみやかに修復します。(緊急障害復旧)

出張修理

障害発生時、保守技術者が出張して修理します。(緊急障害復旧)

エクスプレス通報サービス

ご契約の期間中、お客様のExpressワークステーション本体を監視し、障害(アレイディスク 縮退、メモリ縮退、温度異常等)が発生した際に保守拠点からお客様に連絡します(お客様へ の連絡時間帯:月曜日〜金曜日 午前9:00〜午後5:00)。

「ハードウェアメンテナンスサービス」または「マルチベンダH/W統括サービス」を契約された お客様は無償でこの保守サービスをご利用することができます。 (お申し込みには「申込書」が別途必要です。販売店、当社営業担当にお申し付けください。)

ESS(Express Server Startup)サービス

Express5800シリーズのWindows 2000/Windows NT対応モデルにおいて、ESS対象の サーバソフトウェアやクライアントソフトウェアに対し、以下の機能やサービスを提供しま す。

- インストールプログラムとソフトウェアライセンスの管理
- ソフトウェアの予防保守(RUR)*
- ソフトウェアのアップグレード制度への参加*
- Windows 2000/Windows NTサービスパックの配布*
 - * Delivery Serviceパッケージのみの機能として提供されます。

PP(プログラム・プロダクト)・サポートサービス

NECが納入する一部他社製品のライセンス・ソフトウェアに対し、下記の作業を行います。 (製品によっては保守サービスを提供できないものがあります。)

- PPに関する電話・FAXによる問い合わせ対応
- PPの更新情報・技術情報などの提供
- PPの更新版の提供

オプションサービス

下記のオプションサービスもございますのでご利用ください。 なお、オプションサービスは提供するNEC販売店により、名称、内容が異なる場合がござい ますので、お確かめの上、ご用命ください。以下のサービスはNECフィールディング(株)が 提供するものです。

ヘルプデスクサービス

クライアント・サーバ・システムを対象に、ハードウェア/ソフトウェアの適合性、操作方法、製品機能、障害に対する回避策などのお客様からのご質問に電話、ファクシミリ、電子メールなどで回答します。(クライアント100台単位の購入になります。フリーダイヤルを利用でき、問い合わせ回数は無制限です。)

マルチベンダH/W統括サービス

マルチベンダ製品(Expressワークステーション+SI仕入製品*)で構成されるクライアント・ サーバ・システムに対し、下記の形態による修理を行います。

維持保守形態	定期予防保守と、障害発生機器の切り分け、緊急障害復旧を行います。
出張保守形態	障害発生機器の切り分け、緊急障害復旧を行います。
引取り保守形態	障害発生機器の切り分け、取外し、引取り、持帰り、調査、修理をし、完了後に取付け、動 作確認、修理内容報告、引渡しを行います。
預り保守形態	お客様が送付された故障品を修理し、完了後にご返送します。

* SI仕入製品とは・・・

NECが他社から仕入れ、責任をもってお客様に納入させていただく他社製品のことです。

LANマルチベンダ保守サービス

他社製品を含むマルチベンダで構成されるLAN機器(ルータ・HUB・ブリッジなど)について、障害原因の切り分けとお客様が選んだ保守方式による障害修復を行います。クライアントおよびサーバは、本メニュー対象外です。

NEC製のLAN機器は出張修理を行います。

他社製品のLAN機器についても、シングルウインドウでその障害修復(センドバック、予備 機保守など、お客様が選んだ保守方式による)までをフォローします。

クライアント構成監視サービス

Windows NT/NetWareを使用したクライアント・サーバシステムにおけるクライアントの ハードウェア構成情報とインストール済みソフト情報をリモートで採集し、編集してお客様 に報告します。

LAN・ネットワーク監視サービス

お客様が準備したLAN・ネットワーク監視装置を使用し、INS回線経由で監視します。サービス内容はネットワークノードの障害監視から、性能監視、構成監視まであります。サービス日時は、24時間・365日まで9パターンから選択できます。監視の結果は毎月報告書を発行します。修理はハードウェアメンテナンスサービスで対応します。

ウイルス監視サービス

Windows 2000/Windows NTを使用したクライアント・サーバシステムにおけるコン ピュータウイルスの監視を行い、新種ウイルス情報、最新ウイルスパターンファイルをお客 様に定期的に提供します。監視結果は毎月報告書を発行します。サービス日時は、24時間・ 365日監視します。

情報サービスについて

Express5800シリーズに関するお問い合わせは「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 03-3455-5800(代表) FAX. 03-3456-0657

受付時間/9:00~12:00、13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝祭日を除く)

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお 受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間/9:00~17:00 月曜日~金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

http://express5800.com/

『58番街』:製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載!

http://club.express.nec.co.jp/

『Club Express』:「Club Express会員」への登録をご案内しております。Express5800シ リーズをご利用になる上で役立つ情報サービスの詳細をご紹介しています。

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング(株)ホームページ:メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。

 \sim Memo \sim